

京都市廃棄物減量等推進審議会第4回指定袋制導入検討部会
「家庭ごみ指定袋制を語ろう！青空タウンミーティング」 摘録

【日 時】平成16年11月6日(土) 午後1時～午後2時45分

【場 所】市役所前広場

【出席委員】郡蔦部会長，中島副部会長，飯島委員，岡松委員，熊淵委員，
新川委員，高月委員，松本委員，山内委員

【意見発表者】末松弘子氏，野村直史氏，井上園子氏，高橋かつ子氏

1 開 会

(事務局)

「京路地フェスタ」のステージ企画として，指定袋制導入について市民と意見交換する「青空タウンミーティング」を開催させていただく。ステージ前面には他都市の指定袋実物を展示している。

また，会場の方々に審議経過のレジュメ「指定袋制導入の具体的あり方について」(審議中間まとめ)，市民アンケート案を配布している。「青空タウンミーティング」終了後，是非市民アンケートに回答していただきたい。

(郡蔦部会長)

指定袋制について部会で議論をしてきた。傍聴席も設けているが，市民からなかなか参加を得られない。それならば，我々から出かけて行こうということで，このような場を設けることとなった。市民の皆さまからは是非様々なご意見を賜りたい。

2 指定袋部会審議経過等の説明

事務局より PowerPoint で3つの指定袋制導入パターン，審議経過等について説明。

3 意見発表

(末松氏)

私は指定袋制には反対ではないが，有料化には反対である。

指定袋制の狙いは，ごみを出す人の意識向上，リサイクルの促進，危険な異物混入の防止などである。

マナー向上，分別の徹底という面で，袋の透明化には賛成する。また，割れたガラス等で収集作業員の方がたびたびケガをすると聞いているが，透明袋になればそういう危険は回避できる。個人のプライバシーに関わることは，見えないようにして出すこともできるので問題はない。

有料化については，ごみ減量へのインセンティブ，多く出す人が多く負担する公平性などが理由にあげられている。そういう理由なら納得できるが，有料化の本当の狙いは，市民からお金を取ることにあるのではないかと感じている。審議会では，この点についてどのように議論されたのか，聞かせて欲しい。

有料指定袋制を導入している市町村もあるが、その効果は様々だ。導入直後はごみ減量効果があっても数年で元に戻った、不法投棄が増えた、思ったほどの効果はなかった等の話を聞く。そうした教訓を京都市はしっかりと踏まえて欲しい。

有料指定袋制がごみ減量につながらないのであれば、結局、市民の新たな負担が増えるだけということになるのではないか。ごみ処理にはすでに市民の税金が使われているので、二重の負担を押しつけることになるのではないか。

有料指定袋制によって、京都市のごみ問題の解決になるのか、という点をお聞きしたい。現在のごみ問題の要因は、まず大量生産・大量廃棄にある。次に、プラスチックなど処理が困難なごみが増え続けていることにある。それらの処理のために自治体は膨大なお金をかけて施設を造り続けなければならない。悪循環である。事業者は、物の生産・販売の段階からそうした問題を考えなくてはならない。一方、市民はごみになるような物を買わない努力をすることが必要だ。

京都市に言いたい。市民を信頼し、見通しのあるごみ問題解決の方針を示して欲しい。もっと市民の中に飛び込んで、施策や方針を説明して欲しい。本日のような催しを各行政区で開いて欲しい。ごみを分別したらどのようにリサイクルされるのかが市民にもっと浸透すれば、有料化しなくてもごみ減量・リサイクル・排出マナー向上の効果を得られるのではないか。

指定袋制導入の機会を利用して、市民の意見を大いに聞いて欲しい。

(野村氏)

指定袋制導入により、私たちがごみに目を向けざるを得ない状況が生まれる。それはよいことだ。ただ、多くの方は、市が指定袋制導入を検討していることを知らない。指定袋制は市民全員に関わることであり、知られないまま導入されるのはよくない。行政のPRが足りないというより、自分のこととして意識されていない。指定袋制を多くの方が議論する機会を作り、意識を持っていただくことが重要と感じる。

指定袋制の3つのパターンの中では、パターン2(従量制有料指定袋)がよいと思う。有料化した料金をごみ処理費用にまわすのならば税金の二重取りという問題も出てくるが、ごみ減量・リサイクルのための市民活動支援に使うのであれば問題ない。ボランティアで終わりがちな市民活動に、少しでも財政的な基盤ができれば息の長い活動ができるかもしれない。このようなアクティブなお金の使い方はやってみる価値があると思う。

ごみ袋そのものを、ごみ減量をPRする媒体として用いたらどうか。市のホームページでそうしたPRや、ごみの出し方を掲載しているが、ホームページにアクセスしようとする人は少ない。ごみ袋にホームページアドレスも記載し、多くの方が思わずクリックして見てしまうような、有効なPR方法を考えて欲しい。

学生マンションはごみのマナーがなっていない等の話を聞く。今後社会を担っていく学生を、地域が育てる環境ができれば嬉しい。

(高月委員)

3つのパターンの中では、パターン2(従量制有料指定袋)がよいということでは、よろしいか。

(野村氏)

はい。

(事務局)

それは、有料化して行政が得るお金を市民活動支援に使うという条件付きで賛成するということか。

(野村氏)

はい。

(井上氏)

私は生活学校で消費者問題・環境問題の取組を行ってきた。約30年前、自動販売機の容器回収システムがなく、観光客があちこちに空き缶などのごみをポイ捨てしていた。私たちの活動はそうした空き缶を拾うことから始まった。その後、高月先生、郡嶋先生も加わっていただいて「ごみ会議」を結成し、市に缶・びんの回収をするように再三申し入れたが、なかなか実現しなかった。

最近では環境問題への意識がとても高まったと感じる。それは嬉しく思うが、ごみはいつこうに減らない。リユース・リサイクルの運動を色々行ってきたが、限界がある。大量生産・大量消費を行う限り、どうしても多くのごみが出る。生活パターンを変える必要を痛感している。

指定袋制の導入方式は有料指定袋制がよいと思う。ごみをたくさん出す人は多くの負担をするという「受益者負担」が最も公平と考える。京都市の場合、4人家族1年間で約6万円のごみ処理費用がかかっていると聞いている。1年間に100枚のごみ袋を使うと仮定すると、4人家族が出すごみ1袋分の処理には600円もかかることになる。600円の負担は重すぎるが、せめて大きいごみ袋が100円、小さい袋で70円程度の負担を市民はするべきではないだろうか。そうすると、次第にごみは減るのではないかと思う。

指定袋制導入に当たっては、広報紙やチラシ配布だけでは不十分だ。市が各町内に出かけて「出前学習」をして欲しい。市の熱心な態度がないと、一般市民は動かない。

指定袋制導入の際、資源ごみを混合して収集しているのを改め、缶用の袋、びん用の袋、ペットボトル用の袋を作って欲しい。

(高橋氏)

「めぐるくん推進友の会」に所属している。食品トレーの店頭回収実施に当たり、異物混入の監視やお客さんへの啓発などの活動を行ってきた。回収したトレーをペレット化し、新しいトレーに再生する工場も見学した。きちんと分別すれば資源となることを実感した。

ごみの処理にはお金がかかっている。ごみ袋がたくさん積まれているのを見て、

処理費用分のお金がごろごろ落ちているという感覚を市民が持つようになって欲しい。

家の中をきれいにしたい気持ちから、要らないものは捨てられる。捨てるのはタダなので、どんどん捨てられる。しかし、きれいになったら、また新しい物が欲しくなる。そしてまた捨てる...という悪循環になっている。市民は本当に必要な物がどうかを吟味したうえで物を買う習慣、使える物は最後まで使う習慣をつけるべき。

企業には、ごみになる物は作らない、売らない、環境を考えて製品を作る、ということをお願いしたい。

指定袋制の3パターンについては、パターン3（超過量制有料指定袋）がよいと思う。決められた範囲を超えると料金が高くなるということにすれば、ごみを減らすとする努力が生まれるのではないか。また、「あなたは一般の人より多くごみを出しているのですよ」というメッセージを込める意味合いで、超過量分の袋は色を真っ赤にするなど、目立つものにしたらどうか。

4 意見を受けての部会委員による議論

（郡蔦部会長）

4人の御発言について、委員から御意見をお聞きしたい。

（山内委員）

末松さんの御意見について。市は市民を信用しなさいということであった。しかし、例えば、私はよく街をパトロールするが、現在つくられている資源ごみ用の推奨袋を使っている人はごくわずかである。こうした事例から、市民にはそれだけの意識がないのではないかと感じる。黒いごみ袋は少なくなったが、まだ見られる。

「市民しんぶん」をよく読んでいる人も少ない。

税金の二重取りの問題など、有料化に反対される理由はよく分かる。しかし、ごみ処理にどんどんお金がかかっている現状も考慮すべきである。

名古屋市では埋立処分場がなくなるという緊急事態に遭遇し、ごみ減量にたいへん努力された。京都市でもいつか埋立処分場がなくなるだろう。高月先生の調査によると、家庭の生ごみのうち、手つかずで捨てられた食品が20%近くを占める。このような現状を改め、ごみの発生を抑制するライフスタイルに切り換えていかなくてはならない。

ペットボトルは高齢者にはありがたい容器であるが、日本の法律ではリユースできないことになっている。これを見直して欲しい。

野村さんの御意見について。学生マンションのごみ出しマナーが悪いと、あちこちで聞かされる。外国の方についても同様である。しかし、私は学生が悪い、外国人が悪いという訳ではないと思う。地域の住民が地道に啓発していくべきである。

高度成長期以後に育った人は、ごみ発生抑制を訴えても、なかなか理解されない。啓発は地道にやっていくしかないが、ごみ排出量によって応分の負担をしてもらうという方途が浮かんできた。市には二重課金と受け取られないように制度を設計していただき、実行するのがよいと思う。

(事務局)

補足になるが、資源ごみの推奨袋の使用率は1～2%と低いが、あくまで使用を「推奨」しているだけのものであり、この点で指定袋(それ以外の袋で排出できない)とは異なる。

(中島委員)

京都市で資源ごみの分別収集が始まるのは非常に遅かった。しかも、缶・びん・ペットボトルの3種混合で出せばよく、排出する側にとって便利な方法となっている。それぞれ別に収集する方法を考えて欲しい。

資源ごみは透明の袋に入れて出すよう、市は呼びかけている。しかし、多くはレジ袋に入れて出されており、エアゾール缶などの危険物も混入している。このような現実を訴えると、多くの人は袋の透明化には賛成されるのではないか。

家庭ごみについては、今後、より高齢化が進んだ時、介護用の紙おむつが増えるだろう。それは非常にかさばる。ごみ質が変化していくことも考慮する必要がある。

スーパーでは、容器に入っていない食品を探すのが難しいほど、ほとんどが容器に入っている。企業にも応分の責任を持っていただき、お互い痛み分けをしながら、有料指定袋制を考えていきたい。

5 自由討論

(郡蔦部会長)

会場から発言をいただきたい。

(会場)

京都市が何か取組をする時、いつもPR不足を感じる。私はプラスチック製容器包装分別収集が始まった地域に住んでいる。自治会の会長ぐらいしか話が伝わっていない。これまでの意見にもあったが、市が押しかけてでも市民に話をしたい。

なぜ指定袋制を導入するのか、市民にきちんと理解されないといけない。ごみ処理には莫大なお金がかかり、最終処分地も逼迫している。指定袋制によってごみ減量が図られ、私たちの税金がより有効に使用され、最終処分地が延命されるという共通認識を市民が持つことが重要だ。

有料化に反発する市民もいるだろう。そこで、市が一定枚数のごみ袋を家庭に配布し、余れば市が買い上げるというアイデアはいかがか。そうすると、マイナス意識がプラス意識に転じるのではないだろうか。

水道、電気、ガスなど公共料金のうち、ごみだけが従量制でない。ごみも従量制が当たり前という意識を市民は持たなくてはならない。有料化に賛成である。

(会場)

市のごみ収集の現場で働いている者である。

指定袋制には大いに賛同したい。6～7年前から、私たちの組合は中身が見えるごみ袋を指定袋にして欲しいと要望してきた。中身が見えないことによる収集作業

者のケガが大変多い。昨年の労災件数は85件。うち35件はごみ袋をつかんだ時に発生している。2年前には、ごみ袋をつかんだ時に竹串が手につきささり、そこからばい菌が入った結果、入院治療をしたという大ケガも起きている。危険予知ができるよう袋を透明化（または半透明化）することは切実な要望である。

中身が見えないと何を入れてもいいという意識が働くと思う。家庭ごみに金属類が混入しているとクリーンセンターの設備故障原因にもなる。

有料化については反対である。他都市の事例では有料化しても数年で元に戻ると聞いている。ごみの減量に効果がないならば、導入の意味がないのではないか。税金の二重取りという問題もある。

（会場）

同じく、ごみ収集の現場に携わっている者である。

最近、企業がごみの中身を知りたがっている。ごみ袋にはその家庭の家計全てが入っているからであるからである。私たちには守秘義務があり、企業へのそうした情報提供はしていないが、ごみはプライバシーに深く関わっていることを大半の市民は意識していない。ごみの重要性を訴えたい。

有料化について。私が子どもの頃はみかん箱に入れてごみを出していた。次はプラスチック容器を買って、それに入れて出す。そして袋を買って出すことになった。ごみを入れるものを買うという点から見ると、すでに以前から有料化であったと言える。問題は袋の価格をいくらに設定するかということではないか。

（会場）

文字が印刷された指定袋を導入することが前提のようになっており、何も印刷されていない無地の透明袋が選択肢にない。印刷は「毒」である。印刷した袋はごみになりやすいことも考慮する必要がある。

（会場）

指定袋制導入を前提に話が進んでいるのはおかしい。有料化すれば不法投棄が増える。今も山や林道では不法投棄が多発している。不法投棄の撤去に多額のお金を費やすくらいなら、市民に無地の透明袋を配り、無料でごみを回収した方がよい。企業には余計な梱包をしないように指導すべき。指定袋制前提でなく、一から議論し直して欲しい。

（事務局）

指定袋制については、市民アンケートをはじめ、市民から意見を募る予定であり、それを踏まえて決める。会場の方々は是非、市民アンケートに回答していただきたい。部会の傍聴にもお越しいただきたい。

（郡蔦部会長）

これにて終了する。

5 あいさつ

(高橋環境局長)

本日は熱心な御議論を賜り、御礼申し上げます。審議会には、今後、市民アンケート等で市民の意見を募り、それを踏まえたうえで、来年夏頃に最終答申をいただく予定である。市としても、指定袋制は市民生活に直結する非常に重要な課題と認識しており、ごみ減量に最も有効な方式を考えたいと思っている。お忙しい中ご参加いただいた委員の皆様、意見発表者の皆様、会場の皆様に心より感謝申し上げます。